

第4学年1組 図画工作科学習指導案

1. 題材名 パックパク 何ができるかな? A表現(2) 工作

2. 題材設定の理由

- 本学級の児童は、造形活動に対する関心・意欲が高く、自分の思いを進んで表現している。実態調査でも、95%の児童が図画工作科の学習が好きだと答えている。その理由として、ものをつくるのが楽しい、自由につくれる、いろいろ想像できる、などを挙げている。表現することや発想が広がることに喜びを感じていることが分かる。学習中には、表したいことをすぐに見つけて表す児童がいる反面、自分のイメージを形にするまでに時間がかかる児童も数名いる。児童は、1学期に、ハトメパンチを使って動くおもちゃをつくったり、「ギコギコ、コロコロ、たのしいなかま」で、角材などをのこぎりで切って組み合わせたりする活動を通して、思い付くままに表現を楽しんでいた。そこで、本単元については、児童が、動きを試しながら、イメージを広げて表したいことを見付け、工夫しながら表現することができるようにしたい。
- 本題材は、輪切りにした牛乳パックに割りばしをつけ、その動きから発想しておもちゃをつくる活動である。さらに、つくりたいものに合った効果的な材料を選んだり、紙の形や色や動き方を工夫したりすることができるようになることがねらいである。どれも身近にある材料で、仕組みも簡単だが、割りばしをつける位置や紙をつける位置を変えることで、まったく違う動きを生み出すことができる。この簡単な仕組みは児童の興味を引くだけでなく、感性や創造的な技能を働かせるために大きな役割を担っている。特に、動きを試しながら表したいことを見付けるという過程は、児童の多様な発想と技能を結ぶ機会となる。そこで、本題材における、つくっては試し、試してはつくりながら、自分が表したいものを徐々につくり上げていく活動は、自分でイメージを広げ、つくりだす喜びを味わうという点で意義深いものと考えられる。

本題材は、これまで体験してきた工作に表す題材、1学年「おさんぼ トコトコ」2学年「コロコロ大きくせん！」3学年「パタパタわにさん、クロールにちょうせん」に続く、仕組みを使ってつくる題材である。さらに、本題材は、5・6学年の「くるくる回して」「動き出すストーリー」へと発展していく。中学校においては、彫刻・デザイン・工芸の題材「Let' try!」「生活を豊かに」「お気に入りに囲まれ」「変化させる絵」へとつながっていく。仕組みをつくって発想を広げ、それを生かして作品づくりをする等、この題材で培った力が生かされていくことになる。

3. 研究の着眼点

【視点1】題材設定や展開の仕方を工夫する視点から

「であう」段階では、大きな参考作品でダイナミックな動きを提示し、その動きを身体全体で表現させることにより、どのような仕組みになっているのか知りたいという興味をもたせる。そして、動く仕組みを見せることにより、簡単な仕組みで、おもしろい動きができることに気付かせ、自分たちもつくってみたいという意欲をもつことができるようにする。

「みつける・あらかわす」段階では、どの児童も自分なりに発想を広げることができるように、牛乳パックにわりばしを付けて動く仕組みが分かるようにした模型を置いておく場（仕組みコーナー）を設置し、実際に手に取って動かしてみることができるようにする。そして、実際に簡単な形に切り取った紙を仮止めして動かしてみることにより、自分なりのイメージをもってつくりだすことができるようにする。また、模型だけではイメージの浮かばない児童やつくりたいもののイメージが浮か

んでいるがつくり方が分からずに戸惑っている児童などに対しては、個に応じた参考作品を示し、自分の思いが実現できるようにする。

【視点2】言語活動の場や方法を工夫する視点から

「みつける・あらかわす」段階では、動く仕組みの面白さや動きの面白さなどを互いに話しながら活動することができるように、参考作品を置いておく場（パックパクランド）を設置する。そして、その場で作品を手にとり動かしたり、自分のものと比べたり、試しにつくったりしながら思い付いたことを交流することを通して、発想が豊かに広がるようにする。また、パックパクランドで、動きに合わせて色や形を工夫している作品を取り上げて紹介したり、各自のアイデアを紹介し合ったりすることで、自分が工夫していることを友達に伝えたり、友達のアイデアのよさを自分の作品に生かしたりすることができるようにする。

「あじわう」段階では、自分がつくったパックパクを1年生に紹介し、動かし方を説明したり、一緒に遊んだりすることで、自分の発想やものづくりに対する成就感や満足感を味わわせるようにする。

4. 目標

造形への 関心・意欲・態度	○ 牛乳パックと割りばしを付け、動き方に興味をもち、つくり方に関心をもとうとする。
発想や構想の能力	○ 動く様子からイメージを広げ、つくりたいものを思い付いたり、つくり方を考えたりすることができる。
創造的な技能	○ 牛乳パックと割りばしのつけ方を試しながら、つくりたいものの動きに合った身近な材料を選んだり、手順などを工夫したりしてつくることができる。
鑑賞の能力	○ 自他の作品のよさを見付けながら、楽しく見ることができる。

5. 指導計画と評価計画（総時数 4時間）

	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点 ◎言語活動	評価規準および評価方法
であう	1 輪切りにした牛乳パックと割りばしのつけ方を知り、いろいろなつけ方を試しながら、牛乳パックのいろいろなところに紙をはってその動きからつくりたいものを発想してつくる。 （本時） ①	○ 大きな作品を提示することで、その動き方に興味をもつことができるようにする。 ○ 動く仕組みが分かる模型を提示し、わりばしをつける場所によって動き方が変わることを知らせることで、活動に対する関心と見通しをもつことができるようにする。 イメージできない児童に対しては、参考作品を個別に提示し、イメージがもてるようにする。 ◎ <u>動く仕組みの面白さや動きの面白さなどを互いに話しながら自分の作品づくりに生かしていけるように、パックパクランド・仕組みコーナーなどの場を活用する。</u> ○ 牛乳パックにはる紙をセロハンテープや	【関】 牛乳パックと割りばしをつけているいろいろな動きができることを楽しんでいる。 （行動観察・発言分析） 【発】 いろいろなつけ方を試しながら、自分のつくりたいものを見つけている。 （行動観察、作品分析）

		クリップでかり止めし、動きを確かめながら形や色の組み合わせを考え、つくりたいおもちゃのイメージをもつことができるようにする。	
み つ け る ・ あ ら わ す	2 色、形、大きさ、速さ、動き方を工夫して、自分のイメージに合ったものをつくる。 ②	○ 各自が、思いついたアイデアを大切に工夫するように支援する。 ○ 主な材料は牛乳パックとわりばしとカラー造形であるが、材料ボックスを活用してよいことを知らせる。 ◎ <u>動きに合わせて色や形を工夫している作品を紹介したり、各自のアイデアを紹介し合ったりすることで、自分が工夫していることを友達に伝えたり、友達のアイデアのよさを自分の作品に生かしたりすることができるようにする。</u> ◎ <u>割りばしをつけた場所や動きを発表することで、動きに合わせて色や形選びや動く仕組みや動きの面白さ、工夫などを友達に伝えることができるようにする。</u>	【創】 つくりたいものの動きに合わせて材料を選んだり、手順などを工夫したりしてつくっている。 (行動観察、作品分析)
あ じ わ う	3 友達の作品を見合う。 ① * 1年生とパックパクで遊ぶ。(配当時間外)	◎ <u>割りばしのつけた場所や動きを発表し、動きに合わせて色や形選びや動く仕組みや動きのおもしろさ、工夫などを友達や1年生に伝えることができるようにする。</u>	【鑑】 自分や友達の作品を見て、面白さや楽しさを見付けている。 (発言分析、カード分析)

6. 本時の学習 平成26年10月3日(金) 第5校時 図工室

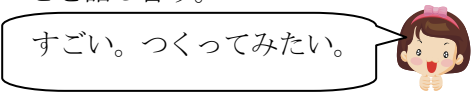
(1) 主眼

パックパクの参考作品を見たり動かしたりしてその仕組みについて知り、動きを工夫したり動きからイメージを広げてつくりたいものをつくったりできるようにする。

(2) 準備

- ① 教師 大型パックパク・小型パックパク・パックパクの仕組み・わりばし・カラー造形・色画用紙・画用紙・つくり方説明図・セロハンテープ・カラーペン
- ② 児童 はさみ・接着剤・図工ノート・鉛筆

(3) 展開

	主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準(評価方法)
で あ う	1. パックパクと出会い、思ったことを話し合う。 	○ 初めに、大きなパックパクと出合わせ、その動きを身体全体で表現させることによって、「どんな仕組みになっているのだろう。」「動かしてみたい。」「つくってみたい。」という意欲を喚起する。 ○ 参考作品を分解してみせ、簡単な仕組みで楽しい作品が

	<p>2. 本時のめあてを知る。</p> <p style="text-align: center;">めあて おもしろい動きを発見しておもちゃをつくろう。</p>	<p>できていることに気付かせるようにする。</p>
<p>みつめる・あらわす</p>	<p>3. パックパクで遊んだり、仕組みを確かめたりしながら、どんなパックパクをつくるか考える。</p> <p>どこに割りばしを付けようかな。</p> <p>この模型みたいに割りばしをここに付けてみよう。</p> <p>割りばしが外れないように、接着剤でしっかり付けておいたほうがいいね。</p> <p>割りばしを付ける場所は同じでも、見る方向によって動き方が違うよ。</p> <p>割りばしを付ける場所を変えたら、動き方が変わったよ。</p>	<p>○ わりばしの付け方を変えた数種類の模型を提示し、わりばしや紙の付け方を工夫することでいろいろな動き方ができることに気付かせるようにする。</p> <p>○ 参考作品を動かしたり友達がつくったものと比べたりしながら交流する「パックパクランド」・模型を動かしながら仕組みについて知ったりどの仕組みを使うかを考えたりする「仕組みコーナー」を設置し、動かしたり試しにつくったりすることで、見通しをもたせ、少しずつ自分が表したいことのイメージをもつことができるようにする。</p> <p>○ 「材料コーナー」を教室の真ん中に設置する。</p> <p>○ 「つくり方やポイントを書いた紙」を掲示し、どのようにつくればよいか、見通しをもたせ、具体的にイメージすることができるようにする。</p> <p>○ 割りばしや紙のつけ方を変えて動かしてみたり、友達と見せ合いながらつくったりすることで、自分のイメージを膨らませるようにする。</p> <p>◆ イメージが浮かばない児童に対しては、パックパクランドで、参考作品を動かしながらつくりたいものをイメージさせる。</p> <p>【関】牛乳パックと割りばしをつけていろいろな動きができることを楽しんでいる。 (行動観察・発言分析)</p> <p>【発】いろいろなつけ方を試しながら、自分のつくりたいものを見つけている。 (行動観察、作品分析)</p>
<p>あじわう</p>	<p>4. どのような作品をつくりたいかを話し合い、これからの学習の見通しをもつ。</p> <p>この動き方、○○みたい。△△を付けたらよさそうだ。</p>	<p>◎ 自分がつくりたいパックパクについて説明したり、友達の話を聞いたりすることで、作品作りの見通しをもったり早くつくりたいという意欲をもったりすることができるようにする。</p>

ご指導よろしくお願いたします。